

# 尊敬語と謙讓語の働きや使い方などについて教えてください。

A

日本語の敬語を尊敬語、謙讓語、丁寧語の三つに分ける考え方は、

現在最も一般的です。今回はこれらのうちの尊敬語、謙讓語について説明します。

尊敬語は、話題の中に登場する動作・

状態などの主体に対する敬意を表すものです。次の例では、話し手は尊敬語の「いらっしゃる」「お出しになる」を用いることによって、話題となっている主体（社長）「山本先生」を高く待遇しています。

○社長、今日はどちらへいらっしゃいますか。

○山本先生は英語の本をお出しになるらしいね。

この場合、尊敬語によって表現される主体というのは、話し手が敬意を払うべきだと考える聞き手や第三者です。ただし、話し手側の人物（身内）のことを第三者として外の人に向かって話す場合には、話し手はその人物に敬意を払うべきだと思っただけでも尊敬語の使用を控える必要があります。

謙讓語は、話題となる動作の主体では

なく、主体以外の人物に敬意を表すものです。その場合、話し手は、話題として取り上げる主体の動作に謙讓語を用いることでその動作をへりくだって述べ、それによって相対的に主体以外の人物を高く待遇するわけです。

謙讓語は、話し手の敬意が向けられる対象の違いに基づいて、大きく二つのタイプに分けられます。

一つは、話題の中で主体の動作に関与する人物（次の例では「中学校時代の恩師」「顧問の先生」）が敬意の対象となるものです。

○私は中学校時代の恩師をお訪ねした。

○松本君は顧問の先生から本をいただきました。

いたらしい。

つまり、主体「私」「松本君」の動作を謙讓語の「お訪ねする」「いただく」で表すことによって、主体以外の話題の人物に敬意を表しているわけです。

もう一つは、話題の人物にかかわる表現でありながら、敬意の対象が話題の中に登場しない聞き手になるものです。

○父は弟に皆と仲良くするように申しました。

○息子は明日から出張で九州の方へまわります。

これらの表現の特徴として注目されるのは、話題となる主体（父」「息子」）の動作を、「申す」「まいる」というようにへりくだって述べることを通して、話し手が対話の場面にいる聞き手に対して敬意を表すという点です。

こうした聞き手目当ての謙讓語が、話し手側に属さない第三者や無生物を主体とする表現に用いられることもあります。

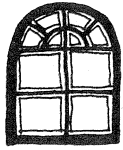
○一段と秋が深まってまいりました。

○電車は定刻より遅れております。

これらの表現には、主体の動作をへりくだって述べるという謙讓語の基本的な性質は認めにくく、専ら聞き手に対する改まりの気持ちを表しています。そこで、このタイプの敬語は「丁寧語」と呼ばれることがあります。

（新「ことば」シリーズ2『言葉に関する

問答集——敬語編——』問1より）



丁寧語の働きや使い方などについて教えてください。

A

前回述べたように、日本語の敬語を尊敬語、謙讓語、丁寧語の三つに分ける考え方が現在最も一般的です。

これら三種の敬語のうち、丁寧語は、敬語としての意味や用法の面を考慮するならば、他の二つの敬語と区別して扱う必要がありません。

なぜなら、尊敬語と謙讓語は、話し手（書き手）が話題の中で取り上げる人物にかかわる敬語であるのに対して、丁寧語は話し手が面と向かって話をしている聞き手（読み手）に対する敬意を表す敬語と考えられるからです。

例えば、

○山田先生は夕方六時に駅にお着きになる。

○私は空港まで山田先生をお見送りした。

という例では、尊敬語の「お着きになる」や謙讓語の「お見送りした」を用いることによって山田先生に対する敬意を表していますが、丁寧語だけを用いた

○山田先生は夕方六時に駅に着きま

す。

○私は空港まで山田先生を見送りしました。

という言い方では、話題になる山田先生には敬意を表さず、聞き手（読み手）に対して敬意を表したことになります。

尊敬語や謙讓語は、話題として登場する人物（話し手と聞き手を含む）がどうい

う人物かということによって使い分けられ、その意味で話題となる内容（素材）にかかわる敬語とみなすことができます。

そのため、この二種類の敬語はひとまとめにして「素材敬語」と呼ばれることがあります。

これに対して丁寧語は、聞き手が話し手にとって敬意を表すべき人物ならば、

○昨日近所の家に泥棒が入りました。

○うちの猫は余り魚を食べません。

○最近はずっと寒い日々が続いています。

のように、話題として取り上げる内容のいかんにかかわらず使用されます。

以上のことから、丁寧語は、尊敬語や

謙讓語とは性質の異なる聞き手目当ての

敬語として区別され、「素材敬語」と対比する形で「対者敬語」と呼ばれることがあります。

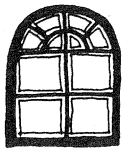
前回紹介した「丁寧語」は、聞き手目当ての敬語であるという事実を重視して、丁寧語の中に入れて扱う考え方もあります。

なお、一般には丁寧語として扱われているものの中に、話し手が自分の言葉遣いを上品にするために用いる語があります。例えば、「うまい」に対する「おいしい」、「めし」に対する「ごはん」、「酒」に対する「お酒」などがそれに当たります。

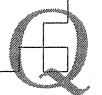
これらは、話題として取り上げられる事物や事柄にかかわる表現であること、また、必ずしも聞き手に対する敬意表現として使用されるわけではない（聞き手がない独り言の場合にも使用されることがある）ことから、丁寧語とは区別され、「美化語」と呼ばれることがあります。

（新「ことば」シリーズ2『言葉に関する

問答集—敬語編—問1より）



自分から電話を掛ける場合、「お電話をいたします」という言い方をしてもよいのでしょうか？



A

「お電話」という言い方は、相手から電話をいただく場合が正しい言い方だと思っていたが、自分から相手に掛ける場合も「お電話」と言っているのかという問題です。

ここでは、その問題を検討する前に、「お」の用法について一般的に説明しておきましょう。

「お」には、敬語を尊敬語、謙讓語、丁寧語に分けたときの、その三種類すべての用法が見られます。

- (1) 尊敬語(話し手が、敬う人の行為や物に付けることによって、相手を高める用法)
  - ①その後、お体はいかががでしょうか。
  - ②お洋服がとてもお似合いですよ。
- (2) 謙讓語(話し手が、自分の行為等に付けることによって、相手を高める用法)
  - ①そのことをお詫びいたします。
  - ②ぜひともお願い申し上げます。
  - ③後日、お電話を差し上げたいと思います。

右の①、②は、「お——○○」の形式で、動詞を謙讓語化する用法です。③の

「お」については後で説明します。

(3) 丁寧語(話し手が、「お」を使うことによって、表現に上品さや礼儀正しさなどをもたらす用法)

- ①お酒には、このおつまみが合うよ。
  - ②お寒くなりましたね。
- それでは、問題の「お電話」の「お」について考えてみましょう。

①先日はお電話をありがとうございました。

②突然、お電話を差し上げて申し訳ありません。

例①の「お電話」は、相手からいただいた電話に付けて相手に敬意を表す尊敬の用法です。ところが、例②の「お電話」は、自分の方から掛けた電話です。「お電話をお掛ける」「お電話申し上げます」といった言い方もあります。

設問の趣旨を再度確認しますと、自分の掛けた電話に「お」を付けることができるのか、付けることができるとすれば、その「お」は一体どういう意味・用法なのか、ということだと思われれます。

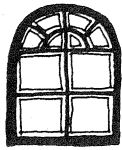
しかし、②の「お電話」も、自分が掛けた電話とはいえ、こちらから相手に差し上げるもの、相手を考えて掛けているものです。相手に関する行動に付けているものであり、その行動が及ぶ相手に敬意を表す謙讓の用法として、②の「お電話」も認めることができます。

これは、「お電話を差し上げる」という一続きの表現でとらえる必要があります。もし、文全体から「お電話」だけを切り離して考えますと、同じ「お電話」なのに尊敬と謙讓の二種の用法があつて分かりにくいということになります。しかし、「お電話を差し上げる」「お電話をお掛ける」などという表現の中でとらえると、謙讓の用法であることが納得されるでしょう。

なお、「お電話」以外にも、類例として「お話・お手紙・お知らせ・御説明・御報告」などがあります。

(新「ことば」シリーズ2『言葉に関する

問答集—敬語編—』問6より)



「結構なものをお送りくださり……。」と  
 「結構なものをお送りいただき……。」とは、どのように違うのでしょうか。

A

問いに挙げられた二つの表現は、敬意や丁寧さの程度という点からは、ほとんど違いがないように見えます。しかし、敬語の種類としては、「おおくださる」が尊敬語、「おくいただく」が謙讓語を作る形式であるという点で、異なります。

まず、いったん敬語形を離れて、「送ってくれる」と「送ってもらう」との違いから考えてみましょう。(便宜上「アナタ」と「ワタシ」という関係に限って説明します。)

基本的には、「送ってくれる」は、へアナタがワタシに(何かを)送るという行為をする。そしてそれは(多くの場合)ワタシに対して恩恵を与える行為である」ということを表し、「送ってもらう」は、へアナタがワタシに(何かを)送るという行為をする。ワタシは求める。そしてその行為によってワタシは恩恵を受ける」ということを表します。また、「送ってくれる」は、すべてがアナタの行為であり、その行為自体にワタシのかかわる余地が

ないのに対し、「送ってもらう」は、「送る」のはアナタの行為ですが、その行為を求めるのはワタシであり、全体としてはワタシの行為になります。

したがって、例えば、突然本が郵送されてきた場合には、相手が自らの意志でその本を送るという行為をし、自分から働きかけたわけではないため、「送ってくれた」が適当な表現になり、注文した本が届いた場合には、自分から頼んで相手に本を送るという行為をさせたため、「送ってもらった」が適当な表現となるわけです。この基本的な意味の違いは、「おくくださる」と「おくいただく」の違いにも反映してきます。

そこで、頼んで物を送ってもらったのではない場合、「結構なものをお送りくださり」の方が適当であるということになりそうですが、必ずしもそう決め付けることはできないと思われまます。

つまり、自分から頼んで結構なものを送ってもらったわけではなくても、自分の方からお願いして送ってもらったかの

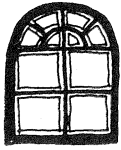
ような表現を用いることによって、自分が恩恵を受けたことを、より強く表す効果をもたらすのではないかと考えられるわけです。実際、「結構なものをお送りくださり」「結構なものをお送りいただき」の両方の形が用いられます。

これに対して、相手をお願いして何かをしてもらったときに、「くくださる」や「おおくださる」で表すのは、少し違和感が生じるおそれがあります。

例えば、自分の方から相手に参加を依頼したときのあいさつでは、「御参加いただき」の方がふさわしく、「御参加くださり」では、へ頼まれたから参加したのになどと思う人も出てくるということです。しかし、「てくれる」「ってもらう」の基本的な違いも、「おおくださる」「おくいただく」のように敬意の程度の高い形式になると、極めて微妙な違いにすぎなくなるということも言えまします。

(新「ことば」シリーズ4『言葉に関する

問答集—敬語編(2)—』問20より)



改まった場面では、親のことを「父が」「母が」と言わなくては  
いけないと教わりましたが、その理由を説明してください。

A

一般に、改まった場面では改まった言葉を使うことが期待されます。自分の父親や母親を指し示す言葉は幾つかありますが、「父、母」がその中でも客観的で改まった言葉と言えます。

「お父さん」は父親を敬い親しんで言う言葉です。「父さん」「おやじ」「(お)おやん」「パパ」なども同様に父に対する親愛の気持ちを感じられる言葉です。改まった場面では、自分の身内について話をするとき、その人を立てたり親しさを示したりしないという原則がありますから、「お父さん」等は不適切と考えられるわけです。

「お父さん」に比べると、「父親」という言葉にも、「父」と同じように客観的な響きがあります。しかし、「(うちの)父親」という言い方は、「おやじ」と同じように親離れた子供が友達と話すときに使うことで分かるように、子供があえて父親との距離をとろうとしている態度が感じられ、やはり私的感情が読み取れます。改まった場面では私情はなるべく避ける、

というわけで、より客観的な響きのある「父、母」が最適と考えられているわけです。

同じような親族名称で、「おじいちゃん」「おばあちゃん」に対して「祖父」「祖母」、「おじさん／おじちゃん」や「おばさん／おばちゃん」に対して「おじ」「おば」、「おにいさん／おにいちちゃん」「おねえさん／おねえちゃん」「○○ちゃん」などに対して「兄」「姉」「弟」「妹」があります。これらも、「父、母」と同じ理由で、同じように改まりによる使い分けがなされます。

「父、母」の、実際の使用状況はどうなっているのでしょうか。小学生を観察すると、作文などでは高学年になると「父、母」を使うようになってくるようです。会話では、小学生は余り使いませんが、中学生になるとかなり多くの者が「父、母」と言えるようになり、学年が上がるにつれてその割合が増え、高校生ではおむね大人と同じように、改まった場面では「父、母」を使うようになっていく

ようです。

上級の学校に上がるたびに比率が大きくなるのは、中学生なのだから、あるいは高校生なのだから、時と場合をわきまえた話し方をすべきであるという指導が学校や家庭でなされた結果と推測されます。一方、小学生ではそのような指導が余りなされていないと思われます。これは、社会的に成熟した話し手には「父、母」などの「大人の」話し方が期待され、未成熟の場合は「父、母」などという言葉を使わなくても構わないという考え方があるからと思われる。

一定の年齢に達した人は、改まった場面でも期待どおりの改まった言語行動をとることにより、敬語を使える知性や態度を身に付けているとみなされ、教養や品格の高さが認められます。「父、母」と言えることは、改まりもさることながら、一人前の成熟した社会人の証拠と言えるわけです。

(新「ことば」シリーズ2『言葉に関する

問答集—敬語編—』問7より)



# 「御返事」と「お返事」では、 どちらの言い方を選ぶのがよいでしょうか。

**A** 「御(ご)」と「お」は、いろいろな言葉に付く接頭語ですが、その使い分けはどのように考えればよいでしょうか。

まず、大まかな傾向としては、「御」は漢語に付き、「お」は和語に付くのが原則というようになります。漢語とは、一般に、漢字を音読みする言葉という程度の意味で使います。「御(ご)」は漢字で書くのが普通ですが、以下では発音を明示するため、「ご」と表記します。

「ご」が漢語に付くのは、次のような例です。

ご本 ご用 ご門 ご飯 ご覧  
ご意見 ご都合 ご専門 ご霊前  
ごぶさた ご説明 ご結婚 ご成功  
それに対して、「お」が和語に付く例は、次のようなものです。

お水 お花 お皿 お金 お言葉  
お願い お休み お勤め お年寄り  
お寒い お珍しい お健やか  
ところが、漢語でも、次のようなものは「お」が付くのが普通です。

お茶 お肉 お盆 お客 お礼  
お宅 お嬢さん お菓子 お弁当  
お料理 お写真 お天気 おきれ  
これらの言葉に共通するのは、いずれも日常生活でよく使われるということ、書き言葉よりも話し言葉によく使われるということ、さらに、女性がよく使うものが多いことも目立ちます。

なお、和語に「ご」が付くことは、ほとんどありませんが、「ごめつくり」「ごもつとも」などの例外があります。

問題の「返事」には「ご」と「お」の両方が付き、「ご返事」「お返事」ともによく使われます。文学作品の用例を、次に掲げます。

〔ご返事〕

○「二三日中に是非こちらへ御返事をしなければならぬからと云ひますから」(夏目漱石『虞美人草』)  
○こちらから御返事をするのは遅速がある。(森鷗外『青年』)

○投函したのに、いくら待っても、ご返事がなかつた。(太宰治『斜陽』)

〔お返事〕

○「困るわね。何といつてお返事をしたら可いんでせう」(夏目漱石『明暗』)  
○私が怒つてお返事らしいお返事も碌に致さなかつた事は、(芥川龍之介『秋』)

この五例のうち、四例が女性の発話なしし独白の地の文で、「お返事」は二例とも女性のものです。この例からは、男女差は明確ではありませんが、「ご返事」に比べて、「お返事」の方が柔らかく親しみやすい感じを伴うと言えるでしょう。

したがって、この使い分けは、改まりの度合いや、相手と自分との関係などによつて決められるべきものです。一般的には、公用文、商用文などでは、「ご返事」が使われることが多いでしょう。個人的な手紙では、相手との関係でどちらを選ぶかということになりますが、最近では目上の相手でも「お返事」を使って失礼に当たることがないでしょう。

(新「ことば」シリーズ2『言葉に関する  
問答集—敬語編—』問20より)



# 何かを人に頼むときの様々な言い方と、敬意の程度とのかかわりについては、どう考えればよいのでしょうか。

**A** 例えば、「本を取る」ということを人に頼む場合、次のような言い方ができます。

○本を取ってください。

○本を取ってください(いただけ)ますか。

○本を取ってください(いただけ)ませんか。

○本を取ってください(いただけ)ますか。

○本を取ってください(いただけ)ますか。

○本を取ってください(いただけ)ますか。

○本を取ってください(いただけ)ませんか。

○本を取ってください(いただけ)ませんか。

○本を取ってください(いただけ)ませんか。

○本を取ってください(いただけ)ませんか。

○本を取ってください(いただけ)ませんか。

○本を取ってください(いただけ)ませんか。

○本を取ってください(いただけ)ませんか。

○本を取ってください(いただけ)ませんか。

○本を取ってください(いただけ)ませんか。

○本を取ってください(いただけ)ませんか。

○本を取ってください(いただけ)ませんか。

一般的には、肯定の形よりも否定の形の方がより丁寧であり、言い方が長くなれば敬意の程度も高くなると考えられて

いるようです。したがって、その意味では、「お取りください(いただけ)ねがえ)ませんか」という言い方が、最も敬意の程度が高いと言えることができるでしょう。

話し手(書き手)から見た相手(聞き手・読み手)の敬語的な位置付けというものを、便宜的に四段階に分けて考えてみると、次のようになります。

①かなり親しい友人・同僚など

②余り親しくない友人・同僚など

③余り年齢差のない教師や上司など

④かなり年齢差のある教師や上司など

基本的には、こうした段階と敬意の程度とはほぼ対応すると言いうこともできます。例えば、①の相手には「取ってください」、②の相手には「取ってください」、③の相手には「取っていただけますか」、④の相手には「お取りいただけますでしょうか」などとなるわけです。

ただし、依頼における敬意の程度の問題は、単に語句や文の問題にとどまりません。依頼の内容や、相手がその依頼を

引き受ける必然性などかかわって、「すみませんが」「恐れ入りますが」などの前置きの言葉や、依頼の展開の仕方についても考える必要があるのです。

例えば、保証人になってほしいという依頼のような場合、敬意の程度を高くするためには、まず「お願いしたいことがあるんですが、よろしいでしょうか」といった「依頼の可能性の確認」をしてから、「こんなことを先生にお願いするのは申し訳ないのですが」といった「おわび」

や、なぜその相手に依頼をしなければならぬのかといった理由を述べます。その上で、「実は、……」というように保証人が必要である事情の説明に移り、その後「御迷惑はお掛けいたしませんので、保証人になっていただけませんか」といような依頼の表現をするか、場合によっては直接的な依頼の表現をしないといった展開の仕方が必要になってくるのです。

(新「ことば」シリーズ2「言葉に関する

問答集—敬語編— 問8より)



「その書類でしたら、三番窓口でいただいでください」とい  
 う言い方は、どこが間違っているのでしょうか。

A

この言葉が、例えば役所の案内係から市民に使われたとします。そうすると、この言い方は「いただく」を含んでいる点で問題が出てきます。「いただく」に続く「〜てください」には問題はありません。

考えなくてはならないのは、書類の受渡し(授受)に関係する二人の人物と、そのことを表現する一人の人物、計三人の人間関係です。整理すると、

表現者(話し手)……案内係

書類を与える人……三番窓口の担当者

書類をもらう人……市民

という関係です。この関係で注意すべき点は、話し手と書類を与える人とが同じ役所の内部の人同士で、書類をもらう人はその外にいる部外者だという、三人の内外関係です。

ここで「いただく」が問題であるのは、案内係にとつて自分側に属する三番窓口の担当者から、部外者である聞き手の市民に渡すという事柄を、その市民を主語

として、「いただく」という言葉で表している点にあります。

なぜ問題かという点、「いただく」という言葉は、物の受渡しに関して言うとき「渡す側を高めて、受け取る側を低める」という働きをする言葉だからです。つまり、この例の場合、案内係は、自分の側である三番窓口の担当者を高く扱い、受け取りにきた市民(それも直接の聞き手)を低く位置付けて表現してしまっていることとなります。これは失礼な言い方です。

もう少し一般的に言い換えると、「いただく」は謙譲語の一種で、物の授受あるいは恩恵の授受に関して、与える側を高め、受け取る側を低めて表現する言葉です。恩恵の授受というのは、何かを人にしてもらい、それを有り難いことだと受け取るという場合です。「来ていただく」「お読みいただく」などのように「〜(て)いただく」という言い方でも使われます。この場合、与える側には目上の第三者

(「先生に」「お客様から」など)とか直接の話し相手(「あなたに」「君から」など)が現れることが多く、受け取る側には話し手自身や話し手側の人物(「私が」「妹が」など)が来るのが普通です。これ以外の場合もあるのですが、いづれにしても、与える側は敬語によって高く表現してよい人物、受け取る側は相対的に低く置いてもよい(低く置くべき)人物であるという制約が付きまとうことは変わりません。設問の言い方は、この制約に反している点に問題があるのです。

では、どう表現すればよいのでしょうか。受け取り手(聞き手)を下げないように、「三番窓口でお受け取りください」「受け取ってください」などとするのが適当な表現です。デパートやホテルなどで「お受け取りくださいませ」という案内を耳にしますが、これは一層丁寧な言い方です。

(新「ことば」シリーズ2『言葉に関する  
 問答集—敬語編—』問27より)



「……山田清様、鈴木様がお待ちしておりますので、駅長室までお越しくください」という言い方は、どこが間違っているのでしょうか。

A

この言い方では、「お待ちして」と「おります」の部分が問題になります。いずれも尊敬語を使うべきところに謙讓語を使っている点が間違いです。

まず、「お待ちする」という言い方は、動詞「待つ」の連用形「待ち」の前後に「お」と「する」とが付いたものです。「お……する」という表現は、話し手又は話し手側の人物を動作の主体とし、動作の受け手など、その動作にかかわる主体以外の人物に敬意を表すもので、謙讓語の一種です。（「説明する」「案内する」などの漢語を語幹とする動詞の場合は、「御……する」となります）

例えば、「AがBを誘う」「AがBから借りる」といった関係において、  
・私は今度の旅行に専務をお誘いするつもりです。  
・息子が先生からお借りした本が見付からない。

という文では、動作の主体であるA（「私」「息子」）ではなく、主体の動作にかかわるB（「専務」「先生」）が敬意の対象となつて

います。

問の場合も、「A（鈴木）がB（山田）を待つ」という関係なので、「お待ちする」という言い方では「待つ」という動作の対象である山田だけに敬意を表すことになり、結果的に鈴木を山田より低く扱うこととなります。しかし、駅の利用者である鈴木に依頼で山田を呼び出すための、駅員のアナウンスであり、駅員にとっては鈴木も山田も敬意を表すべき人物です。両者に対して敬称の「様」が使われていることからそれは明らかです。以上のことから、鈴木を「お待ちして」と表現することは鈴木に対して失礼であり、敬語の使い方として不適切ということになります。

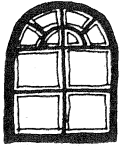
次に、「おります」という言い方における「おる」は、  
・私は今日は外出せずに一日中家におります。  
・私の甥は去年まで大阪の会社に勤めておりました。

のように、基本的には話し手又は話し手

側の人物の動作や状態をへりくだって表現することによって、聞き手に敬意を表す謙讓語の一種です。そのため、先の「お待ちして」の場合と同様、話し手が敬意を表すべき鈴木に対して「おる」を用いることは失礼になります。（丁重語としての「おります」については、四月号の本欄を参照）

問の言い方を適切なものにするには、「お待ちしております（ます）」の部分に尊敬語を用いればよいわけです。具体的には、動詞と補助動詞の両方を尊敬語にした「お待ちになつていらつしやい（ます）」や、どちらか一方だけを尊敬語にした「待つておいでになり（ます）」、「待つていらつしやい（ます）」、「お待ちになつてい（ます）」、さらには、「待つている」の意味の尊敬語として用いられる「お待ち（です）」などがあります。駅のアナウンスとしては、簡素な「お待ち（です）」で十分でしょう。

（新「ことば」シリーズ2「言葉に関する問答集—敬語編」問33より）



「ただ今より、田中会長にごあいさつを頂きます」と「ただ今より、田中会長がごあいさつを申し上げます」とは、どのように使い分けられるのですか。

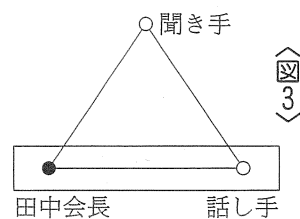
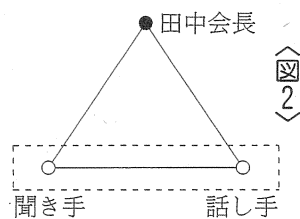
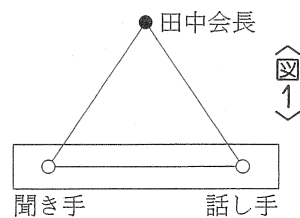
**A** この二つを、例えば会社関係の集まりにおける司会者の言葉として考えてみましょう。

「田中会長にごあいさつを頂きます」の場合、「ごあいさつ」「頂く」によって、話し手である司会者は、話題の人物である田中会長に敬意を表していますが、このように言うことができるのは、田中会長が、聞き手である参加者たちにとっても敬意を表すべき人物である場合です。例えば、司会者と参加者たちが共に同じ会社に属しており、田中会長がよその会社の人であるという場合、あるいは、田中会長が司会者・参加者たちの会社のトップであるという場合です。

前者の場合、田中会長が、司会者と参加者たちの属するグループの外側にいることは明らかですが(図1)、後者の場合も、田中会長が、司会者・参加者たちから敬意を表される人物としてとらえられているという点で、司会者・参加者たちのグループの外側にいるものと見ることができません(図2)。

これに対し、「田中会長がごあいさつを申し上げます」の場合、「ごあいさつ」「申し上げる」によって、話し手は聞き手に敬意を表しており、田中会長には敬意を表していません。このように言うことができるのは、田中会長が、話し手である司会者の側にいる人としてとらえられている場合です(図3)。つまり、聞き手である参加者たちは、話し手(司会者)にとつてだけでなく、田中会長にとつても、敬意を表すべき人物だということです。例えば、よその人たちを招いた集まりで、司会者と同じ会社の田中会長がごあいさつをするというような状況を考えればよいわけです。

「ごあいさつ」について説明を加えると、「ごあいさつを頂く」の場合は尊敬語、「ごあいさつを申し上げます」の場合は謙譲語ということになります(昨年六月号の本欄を参照)。



なお、「田中会長にごあいさつを頂きます」の代わりに「田中会長にごあいさつ頂きます」のように言っても差し支えありませんが、「田中会長にごあいさつして頂きます」というのは誤りです。これに含まれる「ご……する」が謙譲語の形になるため、敬うべき田中会長の動作に謙譲語を用いて、田中会長を低めたことになってしまうからです。

また、「田中会長がごあいさつを申し上げます」の方は、「田中会長がごあいさつ申し上げます／ごあいさつ(を)致しましゅう／ごあいさつ(を)させて頂きます」のように言っても、問題はありません。

(新「ことば」シリーズ4『言葉に関する問答集—敬語編(2)—』問21より)



## 敬語には、年齢や立場の上下関係以外に、

### どんなことが関係しているのでしょうか。

# A

ふだん、私たちはいろいろなことに気を配りながら言葉を選んでいきます。例えば、話し相手を自分のいる所に呼ぶときを考えると、その相手が仕事上の上司や教えを受ける先生であれば「どうぞこちらにお越しください」などと丁寧な言葉遣いを選びますし、部下や年下の相手であれば「ちょっとこっちへ来て」などと気軽な言い方をするでしょう。この例のように、相手との間の立場や年齢の上下関係に気を配って、敬語を含めた言葉選びをしているのは確かです。

しかし、ふだん私たちはもっと様々な人間関係の中で暮らしています。例えば、同じ年上の相手だといっても、日ごろ身近な関係にいる人とそれほどでもない人、あるいは乗り物の中でその時初めて言葉を交わすような人など、その人との付き合いの程度は様々です。そして、その付き合いの程度に応じて、親しい相手であれば、敬語を使うとしても「ちょっとこちらにお願いします」など比較的敬意の軽い言い方になり、初対面の人であれば

「恐れ入ります。こちらにお運び願えますでしょうか」などと丁寧な言葉を選ぶことになります。この場合、相手との上下関係だけでなく、相手との付き合いの程度、つまり親疎関係（親しいか親しくないか）によって、敬語を含めた言葉選びをしていることになります。

また、仮に相手と同じ人物であったとしても、その場がどんな状況や場所柄であるかによっても言葉遣いが変わります。例えば、同じ上司を相手にするときでも、それが会社の改まった会議の席であれば「こちらにお越しください」などと丁寧に言うのに対して、社内レクリエーションの気楽な場であれば「こっち、こっち」くらいにはくだけた言い方に変わるでしょう。逆に相手が年下の部下であっても、普通の場面では「ちょっと来て」などと言っているのが、会議の席では「こちらに来てください」と丁寧な言葉に変わることはよくあることです。このような場合、上下関係や親疎関係という相手との人間関係だけでなく、その場面が改ま

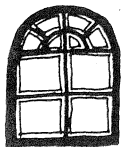
った場面かふだんの気楽な場面かということに気を配って言葉選びをしていることになります。

右に示した事柄、つまり、①相手（また話題に登場する人物）との間の立場や年齢の上下関係、②相手との親疎関係、③その場面の改まりの程度、という三つの事柄は、現代日本語の敬語を考える上で、とりわけ重要なものとされています。

さらに、実際の場面では、その時々、話題や用向きによっても言葉遣いが変わります。例えば、相手に何かを頼むようなときや、相手と何らかの対立があるときには丁寧になり、逆に気楽な雑談のときには打ち解けた話し方になります。また、同じ相手でも、直接会って話すか、電話で話すか、手紙を書くかによっても言葉遣いは変わります。

このように、敬語を含む言葉遣いには様々な要素がかかわっているのです。

（新「ことば」シリーズ4『言葉に関する  
問答集—敬語編(2)—』問4より）



# 敬語は、外国語にはない日本語固有のものなのですか。

## A

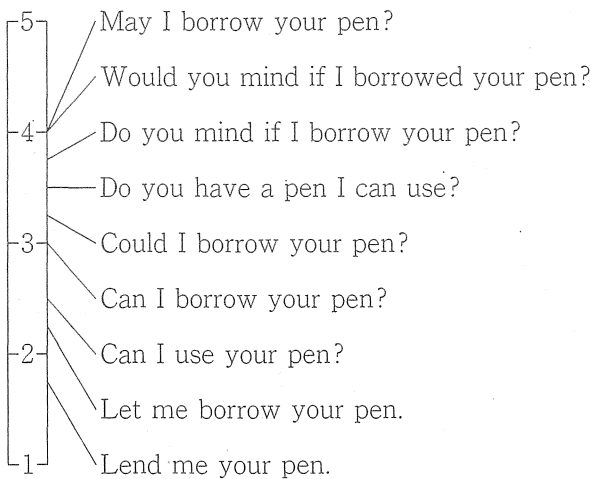
敬語は日本語固有のものとは言えません。日本語の尊敬語、謙讓語、丁寧語に相当するような敬語体系を持つ言語があります。また、日本語のような敬語の体系はなくとも、聞き手や場面などに対する話し手の気配りを反映した敬語的表現や敬語意識は、形を変えてすべての言語に存在すると考えられます。

『世界の敬語』（昭和49年／明治書院）を参考に、具体的に見てみましょう。必ずしも日本語と同じ感覚で運用が行われているわけではありませんが、韓国語・朝鮮語には尊敬語、謙讓語、丁寧語に当たるものがあります。例えば、用言、体言、助詞などの敬語形を使って、尊敬語的な敬意表現として「その方、お食事召し上がりましたか」に当たる言い方や、また、謙讓語的な敬意表現として、「金君が李先生にお目にかかった」に当たる言い方があります。丁寧語は日本語より複雑で、上称、中称、等称、下称の四つの待遇の段階があり、それが用言、代名詞などで区別されます。ジャワ語（ジャバ語）にも

相当発達した敬語の体系があります。話し手と聞き手との間の地位・年齢などによる相対的關係によって、「僕は病気だ」というような常体、「私は病気です」というような敬体などの、異なるレベルが使われます。実際は、「まだねんごろでない同地位の人同士、及び年長者が年少者に用いる純粹常体、「年長者が年少者に常体のみで話すにはまだ遠慮がある場合」に用いる老敬体など様々な種類があります。また、特に身分の高い人に使われる「閣下は病んでいらっしゃる」というような最上敬体には、敬称（尊敬語）と謙称（謙讓語）もあります。

敬語専用の言語要素を持っていない言語にも、敬語的表現は様々な形で存在します。英語で「ペンを貸してもらいたときの言い方」に関する調査があります。図はその結果の一部で、アメリカ人の大学生約五百人に表現の丁寧度を五段階評価で聞き、その平均を出したのですが、それぞれの表現に丁寧度の差があることがはっきりと分かります。

▶ 表現の丁寧度の平均値



敬語表現専用の言語要素から成る敬語体系がなくても、言い回しや助動詞の使用などで、微妙な丁寧さを表現し分け、聞き手などに対する話し手の気配りが示されているわけです。この言い回し等による敬語的表現の工夫は、英語に限らず、日本語でも、そしてどんな言語でも行われています。

（新「ことば」シリーズ2『言葉に関する問答集—敬語編—』問5より）



手紙で用いられる「拝啓」「前略」や、「敬具」「草々」などの語の使い方について教えてください。

A

手紙は、普通、前文・主文・末文の三つの部分から構成されます。

中心となるのは主文ですが、書き出しのあいさつに当たる前文の最初に置かれるのが「拝啓」「前略」などで、これを「頭語」と呼びます。終わりのあいさつとしての末文の後で全体を締めくくることが「敬具」「草々」などの「結語」です。頭語には種々のものがありますが、大別すると次の六種類になります。

- (一) 拝啓・拝呈・啓上など
- (二) 謹啓・肅啓・恭啓など
- (三) 急啓・急白・急呈など
- (四) 再啓・再呈・追啓など
- (五) 前略・冠省・略啓など
- (六) 拝復・復啓・啓復など

(一)は、手紙では最も基本的な用語で、中でも「拝啓」がよく用いられます。「拝啓」とは、「つつしんで申し上げます」という意味です。

(二)は、(一)よりも丁寧さの度合いが強いものです。会社の役員交代のあいさつ状や創立記念パーティーの招待状など、

改まった書状に用いられます。

(三)は、急ぎの用件を述べるとき書き出しで、その後の時候のあいさつなどは省かれるのが普通です。(四)は、前に出した手紙に対する相手の返事を待たずに、続けて手紙を書くときに用います。

(五)は、前文のすべてや一部を省く場合の言い方です。前文には、時候のあいさつのほか、相手の安否を問うあいさつ、感謝の言葉、おわびの言葉などが含まれますが、それらを省略する意味で使います。普通は、「前略」や「冠省」に続いて、すぐに用件に入ります。

(六)は、受け取った手紙に対する返事に用いるものです。「拝復」の「復」は「答える」という意味です。

頭語の多くは二字漢語で、堅苦しく感じられるため、「一筆申し上げます」「前文お許しください」などの言い方が使われることもあります。親しい間柄では、頭語を省くことも珍しくありません。また、弔慰状や死亡通知では、頭語や結語を省くのが旧来の慣例です。年賀状や暑

中見舞では、むしろ頭語も結語もないのが普通です。

結語には、次の三種類があります。

- (1) 敬具(頭語の(一)・(四)・(六)に対して用いるもの)
- (2) 敬白(頭語の(二)に対して用いるもの)
- (3) 草々・不一(頭語の(三)・(五)に対して用いるもの)

(1)は一般的なもので、末文で終わりのあいさつを述べた後に使います。女性は「かしこ」を使うことが多いでしょう。(2)は、「謹啓」などに対して用いるもので、「敬具」よりも一層丁寧な言い方です。ただし、「謹啓」に対して、「敬具」で結んでも失礼ではありません。

(3)は、「前略」などに対する言い方で、「整わない」という意味の結語です。「前略」で始めて「敬具」で結んだり、「拝啓」で始めて「草々」で結んだりするのは不適切です。

(新「ことば」シリーズ4『言葉に関する問答集—敬語編(2)—』問28より)



# 手紙で迷いやすいあて名の書き方について教えてください。

## A

手紙は、前文・主文・末文の三つの部分から構成されますが、末文

の後に、日付、差出人の署名、受取人の氏名・敬称などが書かれて整った形になります。これらを総称して「後付け」と

言います。横書きの手紙では、日付、受取人の氏名・敬称が、「前付け」として、前文の前に置かれることがあります。

あて名は、受取人が一人の場合は氏名を書けばよいのですが、複数の場合、書き方に迷うことがあります。

受取人が連名の場合は、上位の者から先に書きます。

〇〇商事株式会社

企画宣伝部長 甲野太郎様

同第一課長 乙井次郎様

夫婦の場合には、同年輩の親しい間柄であれば、夫の姓名に並べて妻の名を書きます。内容によっては、妻の名が先になることもあるでしょう。

山田一郎様

春子様

ただし、改まった場合や目上の人に出

す場合は、妻の名を書かずに、次のように書くのが普通です。

山田一郎様

御奥様

「御奥様」の部分に「御令室様」「令夫人様」などを用いることもあります。

あて名の人物とその子供にあてて出す場合も同様です。「御令息様」「御令嬢様」を用います。

山田春子様

御令嬢様

兄弟姉妹にあてて出す場合は、年長者の姓名を最初に書き、以下年齢順に名だけを並べます。

山田太郎様

秋子様

次郎様

家族全員にあてるときは、次のように、一名の姓名を記し、そのわきに「御一同様」と書きます。

山田一郎様

御一同様

以上の書き方は、手紙の「後付け」の

方式ですが、封筒の「表書き」でも、それに準じて考えてよいでしょう。ただし、特に必要でなければ、表書きは連名にしなくても構いません。

組織や団体に出す場合は「御中」おんちゆうを用います。

〇〇高等学校同窓会

御中

ある組織に所属する一人一人にあてる場合に、「各位」を使うことがあります。

〇〇高等学校同窓会会員各位

この「各位」の「位」は、人に対する敬称なので、「各位様」「各位殿」のように、「様」や「殿」を付ける必要はありません。

あて名の左下に「侍史」「机下」などと書くのは、その人の近くににいる人やその人のそばに差し出す意味で、間接的に敬意を表すこととなります。これを「わき付け」と言いますが、近年は余り使われないうです。

(新「ことば」シリーズ4『言葉に関する

問答集—敬語編(2)—』問29より)



# 戦後、敬語は国民一般から どのような意識で受け止められてきたのでしょうか。

**A** 国立国語研究所が愛知県岡崎市で昭和二十七、二十八年と昭和四十六、四十七年度の二度、同じ回答者を追跡して行った敬語調査の結果から、次の四項目を紹介しましょう。

①「これからは敬語を使うことをだんだん少なくしていった方がいいと思う」、「だれもが敬語を盛んに使った方がいいと思う」という相反する二つの意見について、それぞれ賛成か反対かを尋ねました。二十年を挟んだ二度の調査の結果、「減らした方がいい」は三四%から三三%、「盛んに使うべきだ」は三〇%から二二%と、それほど大きな変化はありませんでした（小数点以下四捨五入。以下同じ）。これに対し、それぞれの質問に「今のままでいい」と答えた人の割合は、「減らさず今のまま」が二六%から三五%、「増やさず今のまま」が二一%から三四%と増えている、全体に現状維持の意見が多くなっていることが分かりました。

方とどちらがいいと思いますか」という質問については、「昔の方がよかった」という人が、昭和二十年の調査で四三%だったのに対して、二十年後の調査では六〇%に増加しました。

③敬語の使い方については、「お宅では家族の方の間で敬語を使うことがありますか、ありませんか」という質問もあります。この結果は、「使う」という回答が二十年の間に三八%から二二%に減り、「使わない」の方が六〇%から七七%に増えました。これには戦後、核家族化など家族の構成が変化したこと、家長制度など前近代的な規範が薄らいだことなどが背景として考えられるでしょう。（※）

④自分自身が敬語を適切に使えると思っているかについての質問もあります。「目上の人に対して敬語がうまく使えますか」と尋ねたところ、一番多かったのが「大体うまく使える・余りうまく使えない」という中間派で、二十年の間に四五%から五八%に増えました。これに対し

て、「うまく使えない」と答えた人は三〇%から一六%に減っています。「うまく使える」と自信を持って答えた回答者は、二十年を挟んでも二三%と二五%とほとんど変わっていません。

同じ趣旨の質問が、平成七年の文化庁の「国語に関する世論調査」にもあります。ここでも、一番多かったのは「敬語を人並みに使っていると思う」という回答で過半数の五二%、二番目が「使いたいと思うが十分には使えていないと思う」で二九%と続き、「適切に使っていると思う」と答えた人は一五%にとどまりました。敬語に自信のある人は、今もそれほど多くはないようです。

（新「ことば」シリーズ4『言葉に関する問答集—敬語編(2)—』問7より）

※平成九年十二月の文化庁の「国語に関する世論調査」では、「子にとって親は敬語を使って話すべき相手だと思う」と答えた人は二三%、「年下のきょうだいにとって年上のきょうだい」では一五%という結果が出ている。



## 外国語が外来語になるときに、意味にどのような変化が見られますか。

# A

英語などの単語が、外来語となつて日本語の中で使われるとき、意味がずれることがしばしば指摘されています。もちろんずれがあるといつても、

すべての語で大きな相違が生じるわけはありません。意味のずれに関しては、石綿敏雄『外来語と英語の谷間』（昭和58年、秋山書店）にずれの分類と多くの語例が挙げられています。以下、それを基に説明することにします。

ずれのパターンは、全体で次の四つに分けられています。

① 元の外国語と外来語の間で意味のずれが著しいもの、つまり、意味の共通点がないか、又は少ないものです。このグループには、例えば「トランプ」があります。外来語としての「トランプ」は、カードゲームの一つ、また、そのカードそのものを指しますが、英語では、「切り札」という意味です。日本での「トランプ」に当たる英語は playing cards 又は、単に cards です。カードゲームで切り札を出すときに trump と声に出して言ったこ

とから、日本人がカードゲーム全体を「トランプ」と呼ぶようになったため、意味のずれが生じたのではないかなどと考えられています。

なお、この①のグループには、意味のずれを意識的に作り出していると思われるものがあります。特に、外来語を名付けに使う場合で、多くは商業的な理由から使われているようです。例えば「マンション」は、日本では集合住宅の一つですが、英語の場合は豪華な邸宅を意味し、決して集合住宅ではありません。原語の意味とは懸け離れた集合住宅を言うにもかかわらず、欧米風の高級、豪華なイメージを持たせるために外来語を商品名に取り入れているのでしよう。

② 外国語の意味の一部を外来語として使っている場合、つまり、外来語の意味が元の語の意味より狭い場合です。この例には「ストーブ」があります。「ストーブ」は、日本では暖房器具の一つですが、英語では暖房用だけでなく料理用の熱源をもストーブと言うのです。つまり、外

来語としては暖房器具の意味にのみストーブを取り入れたのです。

③ ②とは逆に外来語の方が意味が広い場合です。これは、元の単語の意味を拡大解釈したために起こるものですが、実際の例は余り多くないようです。例えば、「ワイシャツ」は、英語では white shirt で、白いものだけを指します。ところが、日本では色の付いたものもワイシャツと呼びます。

④ ②と③の両方が入り交じった場合です。例えば、「スタイリスト」という語は、英語には、「文章に凝る人」や「デザインなどでアドバイスする人」という意味があります。日本では、前者の意味では使いませんが、他方、「身なりに気を配る人」という意味で使われたりもしています。これは元の英語の使い方にはないようです。外国語の意味の一部を外来語として取り入れ、その後、外来語が新しい意味を拡大させた例です。

(新「ことば」シリーズ6『言葉に関する問答集「外来語編」問6より)



## 現代の日本語で、外来語の使用率はどの程度になっていますか。

# A

日本語の単語には、日本語固有の言葉である和語（「雨」「動く」など）、古代以来の中国語から借用した漢語（「心情」「力士」など）、中国語以外の諸言語から、又は中国語から現代音によって借用した外来語（「デスク」「マーじゃん」など）、それらの組み合わせた混種語（「踏み台」「大型プロジェクト」など）があります。

国立国語研究所が昭和三十一年刊行の雑誌九十種を対象に行った調査によると、右に述べた種類別の単語数の割合は、次のような数値になっています。

	〔異なり語数〕	〔延べ語数〕
和語	三六・七%	五三・九%
漢語	四七・五%	四一・三%
外来語	九・八%	二・九%
混種語	六・〇%	一・九%

外来語は異なりで約一〇%、延べでは約三%を占めていることになりました。異なりに比べて、延べの数が少なくなっています。これは、種類としてはいろいろな外来語が使われているが、全体として

は多くないことを示しています。つまり、外来語の場合、同じ言葉が何度も繰り返して使われることは少ないということです。その点で、和語とは全く逆の性質を持つていることが上の数値からも読み取れます。

ただし、上の数値は、四十年前前のデータであり、現在では、それよりも外来語の使用率の数値はもう少し高くなっているのではないかと推測されます。

また、上の調査では、雑誌を五つの種類に分けて語種を調べていますが、その中で、「生活・婦人」に分類された雑誌では外来語が異なりで九・九%と最も高く、「評論・芸文」に分類された雑誌では同じく五・〇%と最も低いなど、雑誌の種類によって外来語の使われる程度は異なります。

もう一つ、国語辞典についての数字を紹介しましょう。国語辞典に掲載されている外来語は、言わば日本語として定着していると認められたものです。そうした外来語はどれくらいあるのかという問

題です。

宮島達夫ほか編『図説日本語』（昭和57、角川書店）には、『例解国語辞典』（昭和31、中教出版）と『角川国語辞典』（昭和44）に採られた外来語の割合が、それぞれ三・五%、七・八%であることが紹介されています。雑誌九十種で外来語の異なり語数の値は、九・八%でしたから、国語辞典の方が少ないことになります。外来語の場合、ある程度の期間使われるのを待って、初めて日本語として定着したと認められ、辞典に掲載されるようです。そうした事情もあって、国語辞典の数値の方が低くなるのだと思われれます。

ただし、これも、最近の辞典ではもう少し高い数値になっており、現在では一般の国語辞典の外来語の割合は約一割と言われます。さらに、外来語を積極的に収録した国語辞典では、数値がもっと高くなっています。

（新「ことば」シリーズ6『言葉に関する  
問答集—外来語編—』問8より）



# 日本語に西洋系の外来語が初めて入ってきたのはいつごろでしようか。

## A

日本が初めて西洋と直接に接したのは、十六世紀半ば(室町時代末期)です。言語としてはポルトガル語とスペイン語でした。ポルトガルとスペインが十五世紀から十六世紀にかけて世界に進出し、アジアでの活動の拠点を東南アジアに築き、そこから日本に相次いで到達しました。ポルトガルもスペインもキリスト教布教と貿易とを目的として来日し、キリスト教に関係する用語と舶来品に関係する用語が、日本に外来語として残されることになりました。

キリスト教を日本に最初にもたらしたのは、イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルです。彼はスペインのバスク出身ですが、イエズス会では、日本での布教はポルトガルが担当することとし、彼の派遣もポルトガル王の意向によつていました。このような事情から、言葉の上でもポルトガルの影響が多く残りました。キリスト教の教義や制度に関する概念は、日本にはないものであり、日本語に翻訳するか、あるいはラテン語、ポルト

ガル語などの原語をそのまま使うか、教団の中でも意見が対立したようです。しかし、結局は、原語によることが普通になりました。

キリスト教は間もなく禁教になりましたので、キリスト教関係で、ポルトガル語に由来して後に伝わったものはそれほど多くありませんが、例えば次のようなものがあります。

キリスト (基督) / クルス

サンタ・マリア / バテレン (伴天連)

ヤソ (耶穌) / ロザリオ

このうち、「キリスト」は、初めは「クリシト」でしたが、江戸時代が変わりました。「ヤソ」は、「イエス」の中国語訳によるようです。

日本側は、当初キリスト教の布教を認めましたが、関心は舶来品にありました。その名前が、外来語として現代に伝わっています。

### 〔服飾〕

カップ (合羽) / サラサ (更紗)

ジュバン (襦袢) / ビロード (天鷲)

絨 / ボタン (釦) / ラシャ (羅紗)

〔食品〕

カステラ / カルメラ / カボチャ

(南瓜) / コンペイトー (金平糖)

ザボン (朱纒) / タバコ (煙草)

テンブラ (天婦羅) / パン (麵包)

〔その他〕

オルガン / カルタ (歌留多)

チャルメラ / トタン / パンヤ

フラスコ / ミイラ

「カルタ、ミイラ」には、中国での漢字の当て方「骨牌、木乃伊」を用いることもあります。

ポルトガル語に由来するとも、スペイン語に由来するとも言われる語に、「シヤボン」があります。「メリヤス(莫大小)」はスペイン語に由来しています。

以上に挙げた外来語は、江戸時代を生きた延びた後、明治時代以降、大量に入ってきた英語に由来する外来語と併存することになります。

(新「ことば」シリーズ8『言葉に関する

問答集―外来語編(2)―問2より)



明治時代以降に日本語に入った外来語で、  
英米語以外のものは、どのような分野で使われていますか。



A

日本に入った外来語の中で、量的に多い欧米からのものを中心に取ります。

〔フランス語〕 フランス語は英語に次いで多く入っています。まず幕末の軍隊用語に「シャツポ」「ズボン」「ゲートル」などがあります。これは幕府がフランス陸軍の訓練を取り入れたためです。

また、明治末から大正初めにかけてヨーロッパ留学から帰国した人々は、フランス語の美術用語を流布させました。

〔例〕アールヌーボー、アトリエ、デッサン、コンテ

大正から昭和初期にかけて、美術以外の芸術分野にもフランス語が入りました。

〔例〕アンコール、エスプリ、コンクール、デビュー、ジャンル、シャンソン

このほか、フランス語は現代に至るまで、料理や服飾品、化粧品、美容などの分野でも多く使われています。

〔例〕ア・ラ・カルト、オードブル、オムレツ、リキュール、クレープ、ランジェリー、ネグリジエ、オーデコロ

ン、ルージュ、エステティック

〔ドイツ語〕 フランス語に次いで多いのがドイツ語です。明治の初期から政府がドイツ医学を重視したため、医学用語はドイツ語が使われるようになりました。

〔例〕ガーゼ、カプセル、カリエス、カルテ、クランケ、ノイローゼ

ロシア革命が起こった一九一七（大正6）年以降、労働運動やマルクスレーニン主義の理論に関係するドイツ語も使われるようになりました。

〔例〕イデオロギー、テーゼ、デマゴグ、プロレタリアート、ルンペン

哲学用語も、ドイツ哲学が世界に影響を与えていたため、ドイツ語が使われていました。

〔例〕アウフヘーベン、イツヒ、イデー

大正末から昭和初めにかけて、スキーや登山が一般に広まり、関連する語がドイツ語を通じて入りました。

〔例〕アルペン、ゲレンデ、ザイル、シュプール、リュックサック

〔イタリア語〕 イタリア語は戦前におい

ては少数で、音楽用語に見られる程度でした。

〔例〕アンダンテ、アレグロ、ダ・カーポ、ピアノシモ、フォルテ

近年、イタリア料理の流行で、これに関連するイタリア語が入ってきました。

〔例〕ピッツァ、パスタ、カプチーノ、テラミス、ジェラート

〔ロシア語〕 ロシア革命以後、大正期にはロシア語が労働運動と関連して入ってきました。

〔例〕カンパニア（政治運動）、インテリゲンチヤ、ボルシェビキ

〔その他〕 アジアの諸言語からは主として食物や衣服の名称が入りました。中国語から「ギョーザ」「シューマイ」「チャーハン」など、朝鮮語から「キムチ」「カルビ」「チョゴリ」などです。

今後、国際化に伴って、世界の諸言語からもっと多くの語が入ってくると思われ

れます。

〔新「ことば」シリーズ8「言葉に関する

問答集—外来語編(2)—問5より〕

文化庁月報 1998.10

25



似たような意味の外来語には、どのような使い分けがあるのでしょうか。

A

似たような物や事柄を指す外来語の多くは、それぞれの事情によって使い分けられています。以下、幾つかの具体例を取り上げて説明します。

「ズボン・スラックス・パンツ」

ズボン 下半身にはく、股またから下が二つに分かれた洋服についての最も一般的な言い方。

スラックス 本来はゆつたりしたズボンを意味したが、細めのものも指す。スーツの替えズボンについても言う。パンツ ズボンの新しい言い方。また、昔から下着の意味でも使われる。

以前、男性用がズボンで、女性用がスラックスという時代がありました。八十年代の後半、女性が丈の長いズボンをはくことが増え、それに対してパンツルックという名称が与えられました。ファッションの変化に伴って、言葉の使い分けも変化した例と言えるでしょう。

「コップ・グラス・カップ・タンブラー・ジョッキ」

コップ 飲料を入れる円筒形の容器で、

材質は、ガラス、陶器、プラスチック、金属など様々なものがある。

グラス 主に洋酒やビールなどを飲むときに用いるもので、ガラス製。

カップ 西洋風の茶碗わんを指すが、「コーヒークップ」など、造語要素として使うことが多い。

タンブラー 取っ手がなく、底が平らな大型のコップ。普通はガラス製。

ジョッキ ビール用の大型のコップで、取っ手が付いているものが多い。ガラス、陶器あるいは金属製。

この場合は、用途と材質、あるいは形によって使い分けられていると言えますが、使い分けは必ずしも厳密ではなく、人によって異なる場合もあるようです。

「コンビ・ペア・アベック・カップル」

コンビ コンビネーションの略。何かをするに当たっての、二人の組合せ。

また、その二人組。

ペア 一対いの意味に使う。物のペアは二つで一そろいの物、人のペアは主に男女二人のチームの意。

アベック 男女の二人連れを言う。特に恋人同士を言うことが多い。また、「アベックホームマー」のような比喩的な使い方もある。

カップル 恋人同士、夫婦など、一組の男女を言う。アベックよりも新しい言い方。

いずれも二人を意味することが共通しますが、「コンビ」と「ペア」は、組み合わせるという視点からとらえた言葉です。そこで、「コンビ（又はペア）を組む」とは言えますが、「アベック（又はカップル）を組む」とは言えません。他方、「アベック」と「カップル」は、男女の二人という点に力点があります。そして、「アベック」は眼前の二人に使われるのに対して、「カップル」は「AさんとBさんは似合いのカップルだ」のように目の前にいない場合にも使えます。

以上のように、これらの言葉は対象のとらえ方によって使い分けられています。

（新「ことば」シリーズ8『言葉に関する問答集—外来語編(2)—』問19より）

問答集—外来語編(2)— 問19より



「御飯」と「ライス」はどのように使い分けられていますか。

A

外来語の「ライス」は、和語の「めし」、漢語の「御飯」に対応します。英語の Rice は稲や米も指しますが、外来語の「ライス」がそれらの意味で使われることは、普通はありません。「御飯」は、もともと「めし」の美化語でしたが、今では「御飯」が普通の言い方で、「めし」がぞんざいな言葉に位置付けられています。

さて、「めし」にしても「御飯」にしても、米を炊いた食べ物という意味のほかに、「夕御飯」や「めしにする」のように、「食事」の意味でも使われます。外来語の「ライス」は、食事を表すことではなく、米を炊いたものを意味するだけです。まず、この点に「御飯」と「ライス」の一つの大きな違いが認められます。それでは、米を炊いたものについては、「御飯」と「ライス」は同じように使われているかという点、まだ違いがあります。例えば、次のような事実があります。

a レストランで、「パンになさいますか、ライスになさいますか。」と聞かれ

ることがある。しかし、一般の家庭では、「御飯をよそう」と言うが、「ライスをよそう」とは言わない。

b レストランや食堂の「ライス」は、洋風料理で皿に盛ったものを言うことが多い。それに対して、旅館や和風料亭の茶碗ちawanに盛ったものは、普通「御飯」と言う。

c レストランで、パンかライスかと聞かれたとき、客が「御飯を」と注文しても、不自然ではない。

d 「御飯もの」という言い方があり、めん類、パン類と対立をなす。御飯ものには、ライスが添えられた定食や、カレーライスが含まれる。

e まったけ御飯、豆御飯の「御飯」は「ライス」に置き換えられない。また、カレーライス、ハヤシライスの「ライス」は「御飯」に置き換えられない。右の a からは、「ライス」がレストランなどで使われ、「御飯」は家庭などで使われるという違いが分かります。b は、「ライス」が、洋風料理に添えられる、皿に

盛った米飯を指し、「御飯」は、和風料理における、茶碗に盛られた米飯を指すという違いを示しています。

c は、「ライス」のことを「御飯」と表現してもおかしくないということです。また、d は、「ライス」が御飯ものに含まれるということですから、c と併せて、「御飯」の方が「ライス」よりも意味が広いと言えます。

e は、「まったけ御飯」や「カレーライス」のような複合語の場合ですが、複合語になると、「ライス」と「御飯」は区別されることを意味しています。

以上のことから、複合語の場合を別にすれば、「御飯」は一般的な米飯であるのに対して、「ライス」は、レストランや食堂で、洋風料理に添えられる、皿に盛った米飯を意味するのに使われると言えます。つまり、「ライス」は、「御飯」のうちの限定されたものについて使われることが多いのです。

(新「ことば」シリーズ8『言葉に関する  
問答集—外来語編(2)—』問20より)



## 流行語の中には、外来語がどのように現れていますか。

# A

明治以降の外来語の流行語について、時代順に概観してみましよう。

〔明治時代〕 外来語の流行語は極めてわずかで、西洋伝来の新事物名が物珍しさのために口に出されて流行した程度です。「テレグラフ」が代表例と言えます。

明治時代の後半には、「ハイカラ」が流行語になりました。襟えりの高い（ハイ+カラ）シャツからきた語です。初めは進歩主義、欧化主義（者）を指し、西洋かぶれのきざなやつ、舶来の、おしゃれな、という意味でも使われました。

〔大正時代〕 まず、大正初年にフランス映画「ジゴマ」が大人気となって、主人公「ジゴマ」から「ジゴマる」（悪ふざけする意）が流行語となりました。次に、「大正デモクラシー」と呼ばれるように、「デモクラシー」が流行語となりました。ロシア革命後、労働運動が盛んになり、「プロレタリア」略して「プロ」と「ブルジョア」略して「ブル」が流行語となりました。また、大正八年の造船所の争議から「サボタージュ」がやはり、「サボる」

が生まれました。

〔昭和戦前〕 昭和初期は、外国語が多く流入したため、流行語にも外来語が多くありました。中でも「モダン」はこの時代を表す言葉として盛んに使われました。また、流行歌「ザッツ・オーケー」の影響もあり、「OK」「ザッツ・オーケー」が昭和五年に流行しました。

避けたい流行語のアンケート（『婦人倶楽部』、昭和七年一月）には、「エロ」「グロ」「ナンセンス」「ルンペン」「ハリスト」「パパ」「ママ」「○○デー」などの外来語が挙がっています。

〔昭和戦後〕 第二次世界大戦後、進駐軍の兵士が広めた言葉の一つに「ハバハバ」（急げ急げ）があります。これは小児童さえ頻用したほど流行しました。

戦後、若者たちの従来の規範を破る行動が目立ち、それを「アプレゲール」（フランス語で戦後派の意）、略して「アプレ」と言って流行語になりました。アプレ青年の言葉「とんでもハッピーン」もはまりました。これは「とんでもない」と「ネ

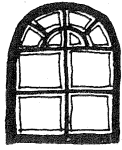
バー・ハッピーン」の混淆語こうごうごです。

昭和三十年代以降、テレビの普及や週刊誌ブームによって外来語の流行が増え、特に高度経済成長期には多くの外来語がはまりました。例えば、レジャーブームと言われた昭和三十六年には「レジャー」や「マイカー」がやはり、三十九年の東京オリンピックの体操から「ウルトラC」がはまりました。

第一次オイルショック（昭和四十八年）以後、経済成長が止まり、重苦しく閉塞さいせきした時代が続きました。昭和五十二年に「ルーツ」「モラトリアム人間」がやはり、翌年、アメリカ映画「サタデー・ナイト・フィーバー」から「フィーバー」がやはり、出口のない状況で、一時的にせよ熱狂、興奮することを求めました。

以上のように、時代とともに外来語が増えるにしたがって、流行語になる例も増え、それぞれに世相を映してきました。

（新「ことば」シリーズ8『言葉に関する  
問答集—外来語編(2)—』問12より）



# 日本で外来語風に作った言葉があると思いますが、

## どんな例があるのですか。

### A

外来語風に作った言葉は大きく分けて二種類あります。一つは既存の外来語を組み合わせて作る、「和製英語」「和製外来語」などと呼ばれているもの、もう一つは日本語を外国語風に変形させて作る、言葉遊び的な外来語もどきで、「疑似英語」「疑似外来語」などと呼ばれているものです。

#### 1、和製外来語

①単独で使える語が結び付いてできたもの  
明治時代では、英語が浸透してきた時期に「ゴムタイヤ」(オランダ語+英語)や「ミルクホール」などが作られました。数はわずかです。

大正時代になると、中・高等教育の普及が著しく、外来語の使用も広まり、「オートバック」「オートバイ」(オートバイシクルの略)「リヤカー」などが作られました。昭和初期は外来語使用の戦前のピークで、和製外来語も数多く作られました。例えば、「ガール」が後に付いた複合語が「ガソリンガール」(ガソリンスタンドで働

く女性)「デパートガール」など数十語も作られました。また、ドイツ語schön(美しい)の訛形「シヤン」(美人)を後に付ける複合語も、「バックシヤン」「ロングシヤン」(遠目美人)など幾つも作られました。さらにまた、当時流行語であった「モダン」を前に付けた複合語「モダンボーイ」「モダンズボン」なども作られました。

第二次世界大戦後、外来語が大量に入ってくる中で、和製外来語もそれ以前と比較にならないほど大量に作られ、それが和製であることに気付かないほどです。

#### 【衣料】

スプリングコート、パンティー、ストッキング、トレーニングシャツ

#### 【飲食】

アメリカンコーヒー、レモンテイ、モーニングサーブिस、マイホーム、ワンルームマンション、ダイニングキッチン

#### 【住居】

バックスクリーン、キャンピング

#### 【野球】

ペーパードライバー、エンジンブレーキ、ワンマンカー

#### 【車】

#### 【仕事】

ベースアップ、アフターサービ

②接頭語や接尾語が付いてできたもの  
この種の言葉は大正から昭和にかけて使われ出し、以後も作られてきました。

#### 【例】

ウルトラサービス(過剰サービス)、ノンセクト、サブザック

現代では英語の接尾語「チック(ティック)」もよく使われています。

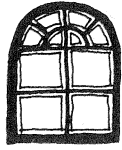
#### 【例】

メルヘンチック、乙女チック

#### 2、疑似外来語

古く江戸時代に平賀源内が蚊取り器を「マーストカートル」(回すと蚊取る)、饅頭を「オストアンデル」(押すと餡出る)などと言った例があり、明治以降も高利貸しを「アクセンタム」(悪銭貯む)、地震を「イエウゴーク」などと言った例がありますが、いずれも遊びで、一般的な言葉ではありません。現代でもこの種のものは商品名などに見られます。

(新「ことば」シリーズ8『言葉に関する問答集—外来語編(2)—』問13より)



## 「コンピューター」と「コンピュータ」では、 どちらの書き方がよいのですか。

**A** 電子計算機 computer を「コンピ  
ューター」と書くか、「コンピュータ  
」と書くか、つまり、語末を長音とし  
て表記するかどうかという問題です。

法令、公用文書、新聞、雑誌、放送な  
ど、一般の社会生活において、現代の国  
語を書き表すための「外来語の表記」の  
よりどころとして、平成三年の内閣告示  
『外来語の表記』があり、その中に、長音  
については次の細則があります。

○ 長音は、原則として長音符号「ー」  
を用いて書く。

(中略)

注3 英語の語末の -er、-or、-ar な  
どに当たるものは、原則としてア  
列の長音とし長音符号「ー」を用  
いて書き表す。ただし、慣用に応  
じて「ー」を省くことができる。

〔例〕エレベーター ギター  
コンピュータ マフラー  
エレベータ コンピュータ  
スリッパ

この注3によれば、問題の computer

は、原則は「ー」を用いるが、それを省  
く慣用があれば省いても構わないという  
ことになります。例をよく見ると、「ギタ  
ー」「マフラー」「スリッパ」と違って、

「エレベータ(ー)」と「コンピュータ(ー)」  
は長音のある形とない形の両方が掲げら  
れています。これは、現実の社会で両形が  
併存していることの表れと考えられます。

現在、新聞や放送では、昭和二十九年  
の国語審議会部会報告を受けて新聞用語  
懇談会が決めた、「語尾の er、or、ar など  
をカナ書きするときは長音符号『ー』を  
用いる」という原則によって、「コンピ  
ューター」を採用しています。

ところが、理科系、特に工学系の人た  
ちの間では「コンピュータ」が使われて  
います。これは、JIS用語や電気工学  
の学術用語集に「コンピュータ」という語  
形が掲げられていることによるものです。

『文部省 学術用語集 電気工学編』  
(増訂二版、平成三年)では、「例言」に「そ  
の言葉が三音節以上の場合には、語尾に  
長音符号を付けない。」とあり、「コンピ

ュータ」のほか、「モータ、ユーザ、フィ  
ルタ、スピーカ、コンデンサ」などの語  
形を採用しています。

一般の言語使用にかかわりの深い辞典  
の世界はと言いますと、両者が入り乱れ  
ているのが実情です。見出しを「コンピ  
ュータ」で立てているもの、「コンピ  
ュータ」で立てているもの、さらには「コ  
ンピュータ(ー)」としているものもある  
ほどです。全体としては、やや古い時代  
の辞書は「コンピュータ」で、新しい  
ものは「コンピュータ」という傾向があ  
りそうです。また、教科書においても統  
一はされていないようです。

以上のことから、「コンピュータ(ー)」  
については、長音符号が省略される傾向  
も認められますが、当面は両形のゆれが  
続くものと思われま。したがって、一  
般にはどちらの書き方も誤りではありま  
せん。

(新「ことば」シリーズ8『言葉に関する  
問答集—外来語編(2)—』問29より)  
※この連載は今月号をもちまして終了します。